

古文 読解問題「土佐日記」～忘れ貝・一月四日～」①

四日。楫取り、「今日、風雲の氣色はなはだ悪し。」と言ひて、船出ださずなり^Aぬ。しかれども、ひねもすに波風立たず。^①この楫取りは、日もえ測らぬかたゐなりけり。この泊の浜には、くさぐさのうるはしき貝、石など多かり。かかれば、ただ昔の人をのみ恋ひつつ、船^Bなる人の詠める、

寄する波打ちも寄せ^②なむわが恋ふる人忘れ貝^{下りて}拾は^cむ

と言へば、ある人の堪へずして、船の心やりに詠め^Dる、

忘れ貝拾ひしもせじ白玉を恋ふるをだにも形見と思はむ

となむ言へる。女子のためには、親幼くなり^Eぬべし。「玉ならずもありけむを。」と人言はむや。されども、「死し子、顔よかりき。」と言ふやうもあり。なほ、同じ所に、日を経ることを嘆きて、ある女の詠める歌、

③手を漬てて寒さも知らぬ泉にぞ汲むとはなしに日ごろ経にける

問一・次の選択肢A～オの中から「土佐日記」と同じ時代に書かれた作品をすべて選びなさい。

ア・とはづがたり イ・蜻蛉日記 ウ・方丈記 エ・平中物語 オ・十六夜日記

問二・傍線部A～Eの助動詞の意味を答えなさい。

問三・傍線部①「この楫取りは、日もえ測らぬかたゐなりけり」とあるが、なぜ筆者はこのように思つたのか答えなさい。

問四・傍線部②「なむ」の文法的意味として最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

ア・ナ変動詞 + 推量の助動詞 イ・強意の助動詞 + 推量の助動詞
ウ・願望の終助詞 エ・強意の係助詞

問五・傍線部③「手を漬てて寒さも知らぬ泉」が表しているものとして最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

- ア・恋しい人を待つ間の時間が冷たく長いこと
- イ・恋しい思いに夢中で、辛さを忘れていること
- ウ・泉の水の冷たさに耐えて、忍耐強く待つていること
- エ・自然の冷たさの中で、人の情愛の温かさを感じていること

読解問題「土佐日記」～忘れ貝・一月四日～① 解答・解説

問一 イ・オ（順不同）

：「土佐日記」は935年頃（平安時代）に紀貫之に書かれたため、平安時代の作品を選択肢から選ぶ。

イ「蜻蛉日記」は975年頃に藤原道綱母によつて書かれた日記文学。エ「平中物語」は960年前後に書かれた歌物語。よつてイとエが正解。ア「とはざがたり」は鎌倉時代に後深草院が書いた日記文學。ウ「方丈記」は鎌倉時代に鴨長明によつて書かれた隨筆文。オ「十六夜日記」は鎌倉時代に阿仏尼によつて書かれた紀行文日記

問二 A 完了 B 存在 C 意志 D 完了 E 強意

問三 天気が悪くなるため船を出せないと言つたにも関わらず、一日中波も風も立たなかつたから

問四 ウ

問五 イ